

令和版の序に寄せて

このたび羊土社の編集者の方よりご連絡をいただき、令和版の編集をお願いしたいとのことでした。私自身も以前から執筆者の一人として参加させていただき、また臨床栄養のことで困ったときには読み返したり、web版で確認したりとたいへん頼りにしてきている本の編集をということでした。執筆者は臨床栄養の第一人者ばかりであり、ビジュアルも多く、数ある栄養関係の書籍のなかでも栄養にかかわる多職種が使ううえでは、とてもよい書籍ではないかと思っていました。その責任編集を私にと言うことでご連絡をいただいたが、さすがに安請け合いで有名な私でもとても受けられないとはじめはお断りさせていただきました。2007年の初版からの編集責任者が大熊利忠先生であり、私が臨床栄養をはじめたところからの尊敬する先生の後を引き継ぐには、もっとご高名で適任者が多くおられると思われるし、先生方が苦勞されて版を重ねてこられた名著を改訂する責任をもつ自信がなかったためです。しかし編集の方より大熊先生から岡田先生でと推薦でしたとのお話をお聞きして、自分の医師人生でお世話になった臨床栄養という分野をしっかりと見直して、現場で役立つものを皆さんに提供できることに医師人生最後の情熱をつぎ込もうと決心しました。とても名誉なことです。

さて2011年の改訂からすでに9年近くが経過しています。栄養の基本については変わってきていないもののわが国の医療、介護をめぐる環境は大きく変わってきています。なによりもわれわれが日常的に相手にしている患者さん、ご家族の高齢化が進んできています。そのような社会を支えるためにどの地域でも地域包括ケアシステムの構築が急がれています。また前回の改訂時には病院のNST（栄養サポートチーム：Nutrition Support Team）が主に栄養管理の中心でしたが、現在では病院のNSTだけではなく、介護施設や在宅へとつなぐ栄養管理の連携システムの構築が求められるようになっていきます。このような時代の変化に合わせて、今までの項目に加えて今回の改訂ではリハビリテーション栄養、認知症の栄養管理、在宅栄養管理などの項目を新しく追加させていただきました。その他、今回新たに『経口栄養療法』と言う章を加えており、学会分類2013や厚生労働省の提唱するスマイルケア食など新しい観点から嚥下食についても詳しく解説しています。『各疾患の栄養管理』においては各論をさらに充実させており、またそれ以外の項でも現在得られている最新の知見に合わせて改訂を行っています。このような編集経緯より、前版から一新した内容になったことからこの『第3版』を令和という新たな時代に出版す

ることを記念して『令和版』として出版させていただきます。

私自身も病院の勤務医から現在は開業医として外来や在宅での栄養管理にかかわっており、また地域の医療介護連携の会議などに参加しています。そのようななかで病院スタッフ、在宅スタッフ、介護スタッフ、行政などが参加して地域での栄養管理システムを構築することがこれからの健康寿命を延ばすことにつながり、最後まで生き生きることのできる社会の構築に貢献できると強く確信しています。その意味でこの本は今までの読者だけでなく地域で臨床栄養にかかわるすべての人に役立つものと思っています。最後に出版にあたりたいへんお世話になった執筆者、羊土社の皆様に心より感謝いたします。

令和2年2月

岡田 晋吾